

# [職場編]研究成果紹介②

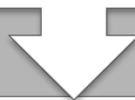
## 研究成果と日本語教育への応用

谷部 弘子  
東京学芸大学

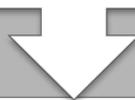
『現日研・職場談話コーパス』公開記念シンポジウム  
2018.9.3

# 本日の報告の流れ

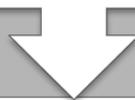
[職場編] 研究事例: 原因・理由を表す「から」「ので」(谷部1997, 2002)



研究背景: 初級教科書における原因・理由を表す「から」「ので」の扱い



日本語教育におけるコミュニケーション重視の流れとコーパス利用



自然談話の観察から日本語教育への応用へ  
(モデル提示から事例提示へ)

# [職場編] 研究事例

## 原因・理由を表す「から」「ので」

### ■ 谷部弘子(1997)

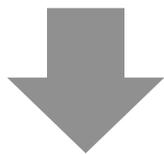
「『のっけちゃうからね』から『申しておりますので』まで」『女性のことば・職場編』 139-154

### ■ 谷部弘子(2002)

「『から』と『ので』の使用にみる職場の男性の言語行動」『男性のことば・職場編』 133-148

# 谷部(1997): 女性協力者19名

文体の丁寧度とのかかわりという観点から  
自然談話における使用実態を見る  
両形式が現れる言語環境と場面状況



場面や発話相手によって、現れ方に一定の傾向

# 谷部(1997):女性協力者19名

場面や発話相手によって、現れ方に一定の傾向

➤「から」優勢:非常にくつろいだ場面で多用

➤「ので」:

全般に丁寧な分脈の中で選択

職場外の相手とのかなりあらたまった場面で多用

➡場面・相手・接続形式とも「から」に比べ狭い範囲で使用

話しことばにおける「から」と「ので」  
待遇表現の側面から捉えることの必要性

表1 場面別出現状況

	I あらたまった場面(4891)	II くつろいだ場面(6520)	計
から	132(53.4)	115(46.6)	247(100%)
ので	<b>109(94.0)</b>	7(6.0)	116(100%)

表2 接続形式別出現状況

	先行句		後続句		から・ので中止
から	<b>非デスマス</b>	<b>205(83.0)</b>	<b>非デスマス 68</b>	デスマス 26	<b>111</b>
	デスマス	42(17.0)	非デスマス 0	デスマス 20	22
ので	非デスマス	68(58.6)	非デスマス 5	<b>デスマス 45</b>	18
	デスマス	48(41.4)	非デスマス 0	<b>デスマス 26</b>	22

# 谷部(2002): 男性協力者20名\*

場面別・接続形式別・年代別出現状況

→ 基本的に谷部(1997)の結果を支持

➤「ので」:

男女とも50代協力者の使用がきわめて少ない  
20代・30代、女性より男性発話における出現率  
が高い

職場における各年代層の男女の働き方、  
与えられた役割の違いが言語表現に影響？

表3 08A\_50f・06A\_40f[女職] および 03A\_30m[男職]の場面別出現状況

	から			ので			発話数		
	場面Ⅰ	場面Ⅱ	計	場面Ⅰ	場面Ⅱ	計	場面Ⅰ	場面Ⅱ	計
08A 50f	11	13	24	0	0	0	303	352	655
06A 40f	17	6	23	17	0	17	320	247	567
03A 30m	5	7	12	31	1	32	176	143	319

個々の出現状況の背景に  
どのような要因があるか

# 【職場編】データに付随する情報

【場面1】

【場面2】

【年齢関係】の上下

【職階関係】の上下

【親疎関係】

➤ 協力者の発話を相手との関係性において  
解釈・分析

# 初級教科書における 原因・理由を表す「から」「ので」の扱い

	SFJ(1992)	みんな(1998)	げんき(1999)	新文化(2000)
<～から>	L.4	L.9	L.9(L.6)	L.13
<～ので>	L.9	L.39	L.12	L.14
辞書形/基本形	L.5	L.18	L.8	L.12

# 『みんなの日本語 初級 I』(初版1998)

## <～から> 第9課

文型3 きょうは子どもの誕生日です**から**、早く帰ります。

練習A 5 いそがしいです **から**、どこも行きません。

しごとがあります

じかんがありません

例文7 どうしてきのう早く帰りましたか。

...用事が**ありましたから**。

# 『みんなの日本語 初級 I』(初版1998)

<～ので> 第39課

文型3 体の調子が悪い **ので**、病院へ行きます。

練習A 4 バスがおくれた **ので**、学校に遅刻しました。

毎日いそがしい どこも遊びに行けません。

あしたはひまな 買い物に行けます。

きょうはたんじょうびな ワインを買いました。

例文4 遅くなって、すみません。

...どうしたんですか。

事故でバスが遅れた**んです**。

# 『みんなの日本語 初級 I』(初版1998)

<～ので> 第39課

文型3 体の調子が悪い **ので**、病院へ行きます。

練習A 4 バスがおくれた **ので**、学校に遅刻しました。

(抜粋) 毎日いそがしい どこも遊びに行けません。

あしたはひまな 買い物に行けます。

きょうはたんじょうびな ワインを買いました。

例文4

遅くか

...どう

事故

V

い-adj

な-adj

N

plain form

plain form

～だ→～な

ので、～

『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE  
Vol.2: NOTES 』(1992:228)

{S1} から、{S2}

1. 熱がありましたから、授業を休みました。
2. 時間がないから、いそぎましょう。
3. あしたは休みだから、映画に行きます。

{S1[plain]} ので、{S2}

1. 熱があったので、授業を休みました。
2. 時間がないので、いそぎましょう。
3. あしたは休みなので、映画に行きます。

# コミュニケーション重視の流れとコーパス利用

- 2003(平成15)年度日本語教育学会秋季大会(於:大阪大学)

## 【シンポジウム】

「新しい日本語教育文法-コミュニケーションのための文法をめざして-」

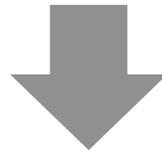
野田尚史編(2005)『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版

# フォード丹羽(2005)

表1 自然談話データにおける「から」と「ので」の使い分け

ていねい形「から」	42例(17%)	普通形「から」	205例(83%)
ていねい形「ので」	48例(41%)	普通形「ので」	68例(59%)

(谷部弘子(1999:p.146), 表は筆者が作成し直したもの)



「から」: 早い段階で導入 = 「接続形式偏重」

使用実態 → 「から」の前接形式は普通形が圧倒的

→ 「ていねい形・普通形を選ばない「ので」を

むしろ先に導入した方が安全」

# 「から」「ので」に関するその後の展開

文献	調査データ	調査結果	備考
谷部(1997) 谷部(2002)	女職(女性19) 男職(男性20)	「から」247 「ので」116 「から」181 「ので」145	
江田・小西 (2008)	男職全データ 小説5作品 新書4冊	「から」300 「ので」205 「から」143 「ので」21 「から」276 「ので」114	3級4級文法項目 の使用頻度調査
中俣(2014)	現代日本語書 き言葉均衡コー パス(BCCWJ)	「から」110,738 「ので」80,564 「マスカラ」動詞出現数の約10% 「デスカラ」形・名出現数の25%強 「マスノデ」動詞出現数の約20%	「から」全体のおよ そ4分の1は「から」 中止形 およそ4分の1は理 由をあらわさない
岩田・小西 (2015)	名大会話コー パス	「から」7,953 (初級文法内高頻度項目) 「ので」293	口頭表現出現率 (森2011との比較) 「～から」96.4% 「～ので」40.4%

# 日本語教育の観点からの[職場編]利用事例

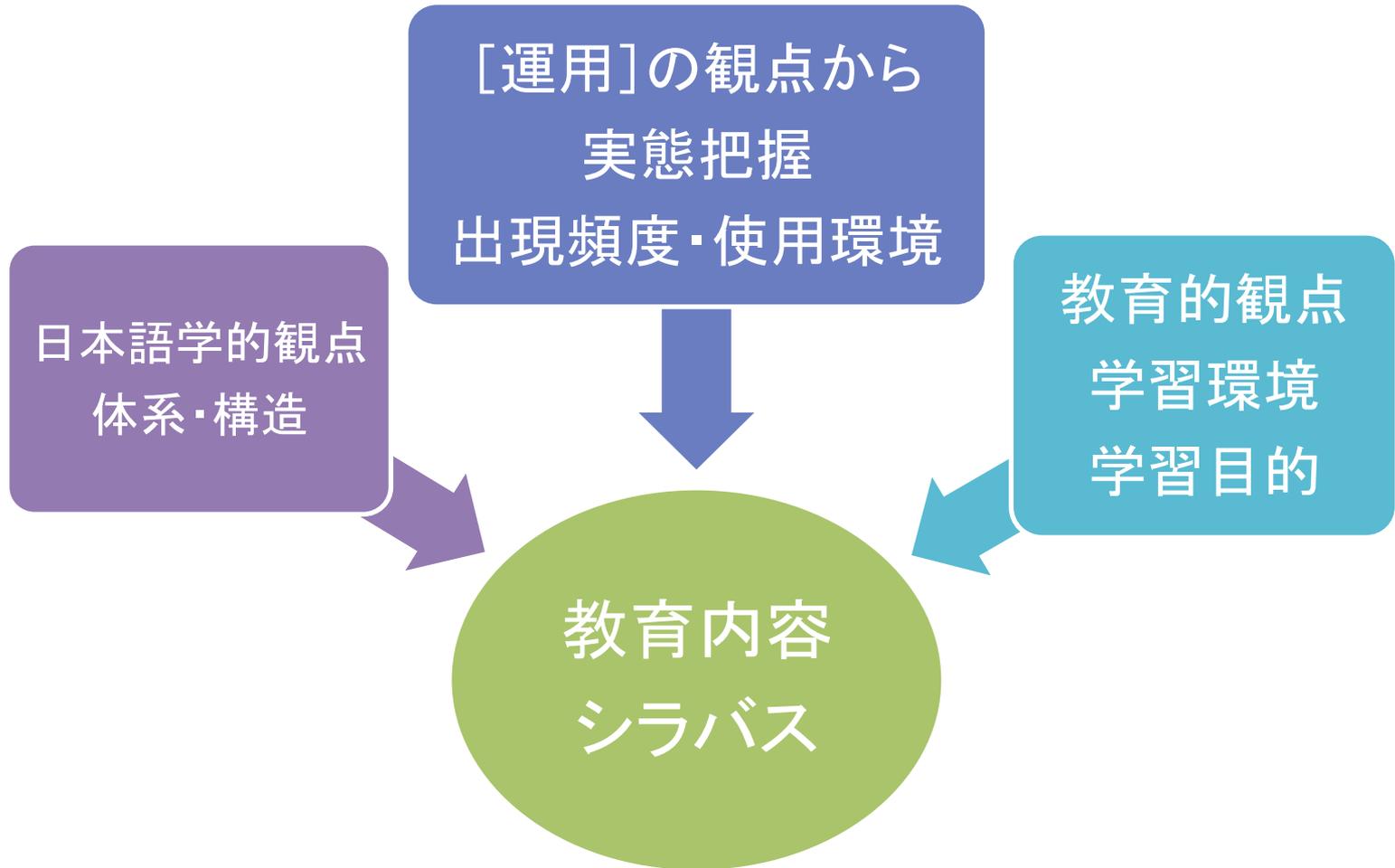
文献	調査項目	調査データ	比較の対象	結果
小林 (2005)	「～ません」と「～ないです」	名大コーパス 女職・男職 全データ	初級教科書 参考書	初級段階:原則として「～ません」,「イ形-ないです」 日常会話:「～ないです」優勢 →運用中心では両形式の提示を
小西 (2008)	義務を表す表現	名大コーパス 男職全データ CSJ 新書・白書	音声・文字 私的・公的 聞き手との相互作用の有無	名大・職場では「なきゃ+いけない」、新書・白書では「なければ+ならない」
庵 (2009)	「でしょう」	女職・男職 全データ	初級教科書	初級教科書:推量用法重視 話し言葉:確認が中心的用法/ 言い切りの推量用法は極めて少ない
金庭・山森・奥野 (2013)	「じゃないか」の談話機能	女職・男職 全データ 聞き手情報に言及	学習者の縦断的発話, 学習者と母語話者の談話	「じゃないか」にターン維持の機能あり → 学習者への母語話者によるインプットの可能性示唆

# 『初級日本語 げんき』第2版(2011)

「文法では3つの否定形「～くありません」(形容詞)、「～じゃありません」(名詞文)、「～なくちゃいけません」について、**実証データに基づき**、日常の場面でより広く使われている「**～くないです**」「**～じゃないです**」「**～なきやいけません**」の形を学習するように変更しました。」

(<http://genki.japantimes.co.jp/about/point> )

# 自然談話の観察から日本語教育への応用へ



「運用の実態に即した教育内容と共に、学習者の負担という点をも考慮する必要がある」「もっぱら丁寧体を必要とする学習者にとっては...「～ます・～ません」と対応させるほうが簡潔で平易...」(小林2005:16)

「学習者が日常生活で「です・ます体＋ので」の形を使うと丁寧すぎる印象を与えるので、ここでは「基本体＋ので」の形を使うように指導する」

(『新文化初級日本語 I 教師用指導手引き書』2000:113)

「だれが何のために使うのかを明確にしたさまざまな「オーダーメイドの文法」を」(野田2013:71)

# 自然談話の観察から日本語教育への応用へ

- 教科書記述の限界
- 教師自身が言語使用の実態を観察することの意義
  - ➡ コーパス利用[総体的な出現頻度＋個々の使用環境]

大規模コーパス ✖ [職場編]

- 学習者の学習環境や学習目的に配慮した指導内容の取捨選択
  - ➡ モデルの提示から事例の提示へ

## 参考文献1

- 庵功雄(2009)「推量の「でしょう」に関する一考察:日本語教育文法の視点から」『日本語教育』142, 58-68
- 岩田一成・小西円(2015)「第5章 出現頻度からみた文法シラバス」庵功雄・山内博之編著『現場に役立つ日本語教育研究1 データに基づく文法シラバス』くろしお出版, 87-108
- 金庭久美子・山森理恵・奥野由紀子(2013)「談話における確認表現の「じゃないか」:『女性のことば』『男性のことば』のデータから」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』21, 73-89
- 小西円(2008)「実態調査からみた「義務の表現」のバリエーションとその出現傾向」『日本語教育』138, 73-82
- 小林ミナ(2005)「日常会話にあらわれた「～ません」と「～ないです」」『日本語教育』125, 9-17
- 江田すみれ・小西円(2008)「3種類のコーパスを用いた3級4級文法項目の使用頻度調査とその考察」『日本女子大学紀要』57, 1-28

## 参考文献2

- 砂川有里子(2011)「日本語教育へのコーパスの活用に向けて」『日本語教育』150, 4-18
- 中俣尚己(2014)『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』くろしお出版
- 野田尚史(2013)「「オーダーメイドの文法」をめざして」『日本語学』32(7), 62-71
- フォード丹羽順子(2005)「コミュニケーション能力を高める日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 森篤嗣(2011)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』コアデータにおける初級文法項目の出現頻度」森篤嗣・庵功雄編『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房, 57-78